

道徳科学習指導案

中学校 第3学年

1 主題名 価値をめぐって B－（9）相互理解・寛容

2 資料名 「しあわせ」（出典『明日をひらく3』東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、「B 主として人との関わりに関すること」の「（9）相互理解・寛容」に関する指導内容である。「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」とある。

学校生活の中では、学級の活動だけでなく部活動等を通して様々な人間と出会い、関わり、多くの経験を積みながらその中でもものの見方や考え方の多様さを実感する。自分の考えをもち、その考えを周りに伝え、自分の立場を明確にすることも大切である。しかしながら、自分の考えを押しつけるだけでなく、他者のよい面を積極的に認め、他者を受け入れる寛容な心をもつことも他者との関わりの中では必要だろう。

(2) 児童・生徒の実態

本学級は、明るく素直な生徒が多い学級である。学年や学級内で穏やかな人間関係を築き、周りの様子を見て行動したり、発言したりすることができるような生徒も多数いる。しかし、自分の考えや思いを素直に表現しすぎてしまうことで、他人の気持ちを慮って相手の視点から考えることのできない様子が見られることもある。そのことから、友人関係の上でのいさかみや、思いの行き違いが起こることもあった。自分の考えをもち、それを伝えることの大切さだけでなく、他者にも自分と同じようにその人なりの考えをもっていることに気がつき、それを受け止めることの大切さを考えさせたい。

(3) 教材について

本資料は、好きな食べ物についての会話から、一人一人の考え方に違いがあることに主人公が気付くというものである。主人公のタマゴマンは、嫌いな豆腐料理であるマーボ豆腐を、「いちばん好き」と感じる人がいることに不思議な気持ちを抱く。また、クラス全体での「しあわせ」についての意見の言い合いを通して、主人公は小さなことでも考え方が違うことを実感する。

給食という中学生にとっての日常が話題となっているため、生徒たちには親しみやすく身近なものとして考えることができるだろう。「しあわせ」について学級のみんなで話し合い、登場人物たちが多様な考えを口々に発していく場面では、人それぞれの考え方があることを生徒たちも実感し、登場人物に自分自身を重ね合わせ、共感しながら価値観の違いについて、考えを深めることができるだろう。

4 指導の工夫

○事前指導として

- ・ 道徳の時間においては、A一（3） 向上心、個性の伸長「見方を変えれば」という主題で、人それぞれに個性があり、自分の個性を伸ばすことの大切さやよさを考えてきた。
- ・ 体育大会等の行事へ向けての学級活動において話し合いの場面をいくつかもたせ、学級内でも協力し、お互いに認め合うことの大切さを指導してきた。

○本時の学習として

- ・ 導入では、「しあわせ」と感じるものは何か、それぞれの生徒に考えさせることで、「しあわせ」と考えるものも多様であるということを確認し、生徒の間に価値観の違いがあることを感じられるようにする。
- ・ 補助発問を加えることで、自分と違う意見をつい否定、批判してしまうことに気づかせ、問題意識がもてるようにする。
- ・ ゴールに向かうために何をすればいいかグループで考えさせる活動を通して、いろいろな立場や考え方があるということだけでなく、それを受け止めた上でどうしていくかを考え、今後の生活につなげられるようにする。
- ・ ホワイトボードに生徒の考えを書かせ、黒板に掲示し可視化することで、多様な考えがあることを実感させる。
- ・ 座席をコの字型の形態にすることで、お互いの表情を見やすくし、生徒同士の自然な対話が生まれるようにする。また、座席をコの字型にすることで道徳の時間という意識をもたせ、意見を言いやすい雰囲気を作る。

○事後指導として

- ・ 授業後の学級生活や行事に向けての活動の中でも、違う考えや価値観を受け入れ、そこから学ぶ姿勢をもつことの大切さを育てていく。

5 本時

(1) ねらい

それぞれの感じる「しあわせ」について意見交換を行うことを通して、それぞれの立場を尊重し、寛容の心をもって、いろいろなものの見方や考え方があつことを理解しようとする態度を育てる。

(2) 準備

指導者：教科書、ワークシート

生徒：教科書、ファイル

(3) 展開

過程	学習活動	○基本発問 ◎中心発問 ☆補助発問 ・予想される児童生徒の反応	時間	指導上の留意点
導入	1. 「しあわせ」について考え、資料を読む。	○どんなときに「しあわせ」だと感じますか？ ・何か買ってもらったとき。 ・おいしいものを食べたとき。 ・テストの点数が上がったとき。 ・疲れた日にお風呂に入ったとき。	2	・「しあわせ」についての考え方も多様であるという意識をもたせた上で、範読をする。

		<p>○自分の嫌いなものが給食に出てくる。どう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憂うつだな。・食べたくないなあ。 <p>○自分の嫌いなものを大好きだと喜んでいる人がいる。どう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信じられない。・自分とは違うな。 <p>☆自分の好きなものを否定されたら、どう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい。・辛い。 ・ちょっと腹が立つかもしれない。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りに終結しないよう、自分のこととして考えられるようにする。 ・自分とは違う考えをつい否定しがちになってしまうことに気づかせると同時に、否定されるとどのような気持ちになるのか考えさせ、問題意識をもたせる。
めあて 考え方が違うとき、どうしていけばよいただろう。				
展開	2. 資料内の先生の言葉について考える。	<p>○「クラス中の人々が幸福にならない限り個人の幸福はありえない。」という言葉がある。タマゴマンのクラスの人たちは幸せでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べるのが幸せでない人もいる。 ・何が幸せかは、人それぞれちがう。 <p>○このクラスに置き換えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30人全員が幸福なら、自分も幸福ということだ。 ・一人でも不幸な人がいたら、みんな不幸ということかな。 <p>☆みんなが、同じものを好きではないと、幸せとは言えないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸せなときか不幸なときか、どちらかだけではないと思う。 ・幸せとを感じるものは、ひとそれぞれだから、違うと思う。 	15	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物たちの学級について考えさせることで、自分たちの学級に置き換えて考えられるようにする。 ・多様な価値観につながるように、給食以外の例を挙げる。 ・導入で挙げた「しあわせ」と感じるものを振り返らせることで、一人一人に違った考え方があることに気付かせたい。
	3. 「ゴール」は何か、考える。	<p>◎考え方の違いを知ることがスタートと言っています。ゴールは全体の幸せ。このゴールに向かうために、何をすればいいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違っても、その人はその人だと受け入れる。 ・考え方が違っても、そういう考え方もあるのだと受け入れる。 ・一度しっかりと受け止めて、否定しないようにする。 	20	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で、考え方の違いに直面した場面を想起させる。 ・考えをもつのが困難な生徒に対しては、考え方が違うときに、自分だったらどうしてほしいか考えさせる。否定されると、どんな気持ちになるかを振り返らせる。

		<p>☆本当にできるでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つい否定してしまうことがあったな。 ・なんでも認めていいわけではないな。 <p>○認めたり、認められたりするには、どうすればいいでしょう。</p> <p>☆ゴールに辿り着くために、自分は何をしていきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずはその人の話を聞く。 ・考えが違う人からも、よいところを見つける努力をする。 ・考え方は違うかもしれないけれど、よいところを探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入での確認を振り返り、認めることや受け入れることの難しさを考えさせる。 ・自分や周りの生徒がよりよい生活を送るために、という視点をもたせる。 ・生徒から出てきた「認める」や「受け入れる」などの言葉を使って、発問するようにする。 ・具体的にどのような行動を取ることで、ゴールに向かうことができるか考えさせたい。
終末	4. 本時の振り返りをする。	<p>○今日の授業で自分が学んだことや、考えたことを感想として書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このクラスにもいろいろな考えの人がいることに気が付いた。 ・他の意見や考えをもっている、受け入れることが大切。 	5 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの深まりを実感できるように、感想を書く時間を確保する。

6 評価

- ・ペアやグループでの友達との対話により、寛容な心をもつことについて多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・友達との対話やワークシート・ホワイトボードへの整理により、寛容な心をもつことについて自分自身との関わりの中で深めているか。

全体が幸せがゴール

○認めたり、認められたりするにはどうすればいいだろう。

◎ゴールに向かうためには何をすればいいだろう

「考え方の違いを知ることが全体のしあわせを考えるスタート
個人の幸福はありえない。」

「クラス中の人が幸福にならない限り人は人だから……」

「めあて考え方が違うとき、どうしていけないだろう
嫌いなものがでる！ 喜んでいる人がいる！
・いやだなあ
・信じられない
・食べたくないなあ
・そういう人もいるかも
※好きなもの、否定されたら？
いい気分はしない
人は人だから……」

B-9 価値をめぐって
「しあわせ」